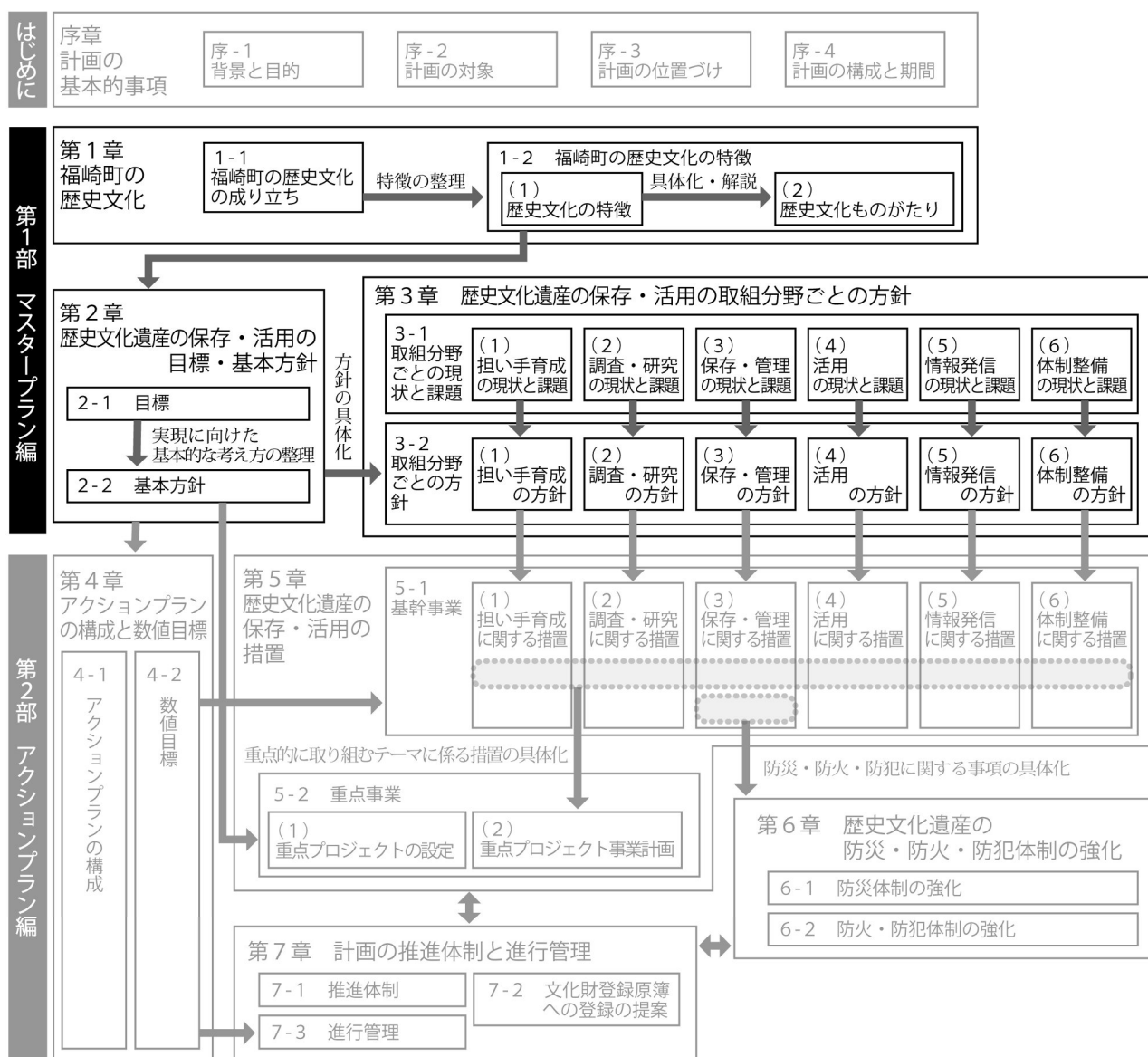


第 1 部

歴史文化遺産の保存・活用の考え方

【マスタープラン編】

第 1 部では、福崎町の歴史文化の特徴等を整理した上で、中長期的な視点からの歴史文化遺産の保存・活用の方向性（目標・方針）を示しています。



第1章 福崎町の歴史文化

1-1 福崎町の歴史文化の成り立ち

(1) 社会環境

位置・面積 福崎町は、兵庫県の中央よりやや南に位置し、町域は、東西 10.1 km、南北 11.5 km、面積 4,579ha です。兵庫県の旧五国(摂津国、播磨国、但馬国、丹波国、淡路国)では播磨国、現在の 5 地域区分(神戸・阪神地域、播磨地域、但馬地域、丹波地域、淡路地域)では播磨地域にあたります。(図 1-1)

人口 人口は、昭和 40 年(1965)以降、増加傾向でしたが、平成 17 年(2005)の 20,669 人をピークに減少に転じ、平成 27 年(2015)には 19,738 人となり、令和 42 年(2060)には 14,612 人まで減少すると推計されています。また、高齢化も進み、平成 22 年(2010)には高齢化率が 23.7% となって超高齢社会に突入し、令和 42 年(2060)には高齢化率が約 33.5% となると推計されています。(図 1-2)

このように歴史文化遺産の保存・活用の担い手の減少が大きな課題となっており、人口減少や高齢化は、中心市街地(福崎インターチェンジや JR 福崎駅の周辺)から遠ざかるにつれて顕著になっています。

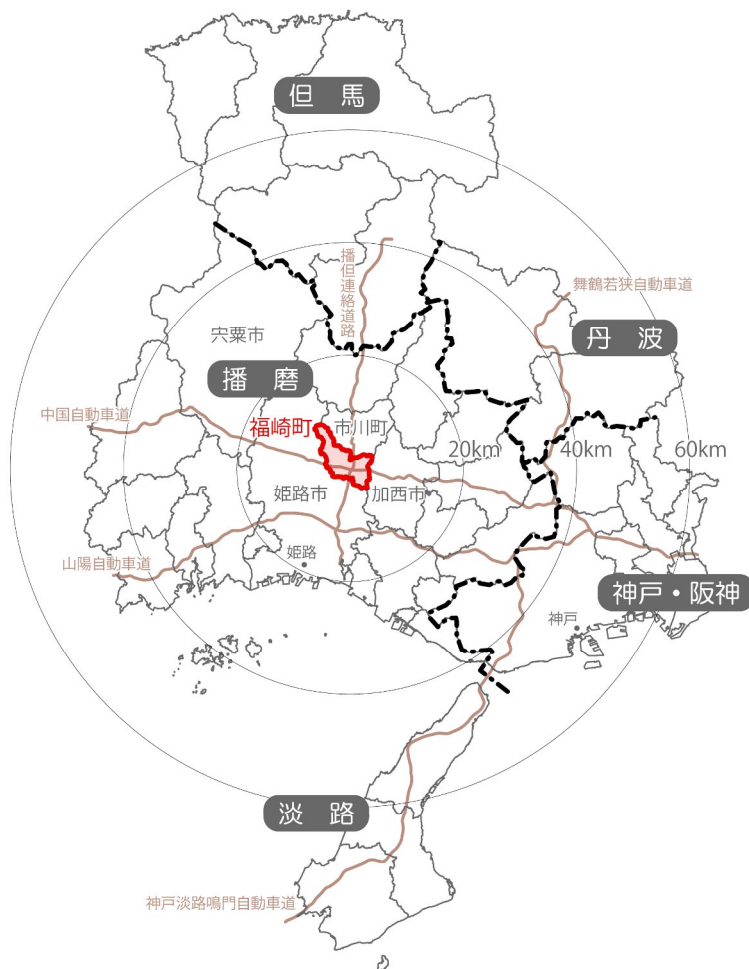
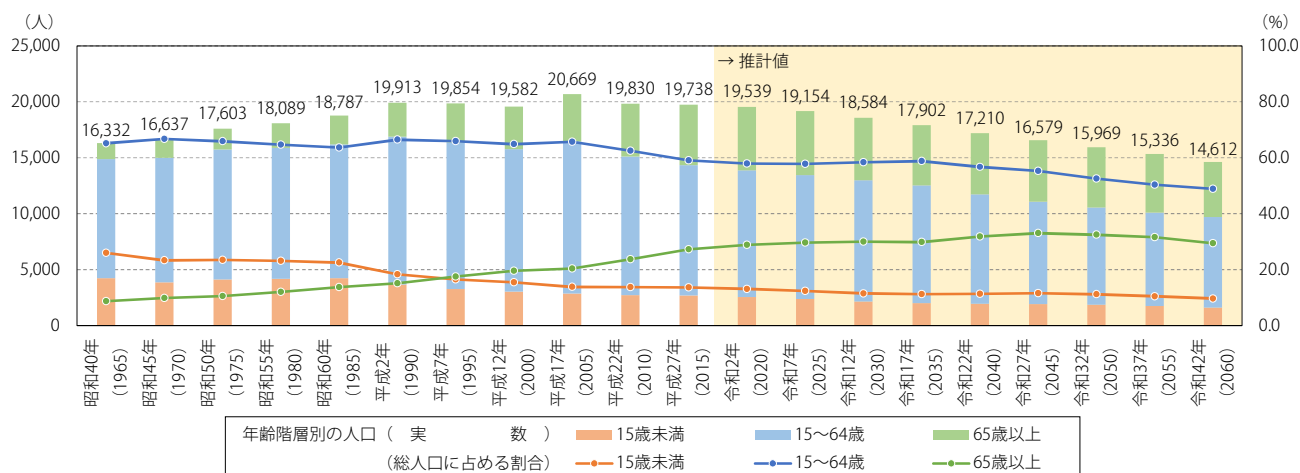


図 1-1 福崎町の位置



資料：平成 27 年までは国勢調査、令和 2 年以降は町独自の推計(「福崎町人口ビジョン(改訂版)」令和 2 年 3 月)

図 1-2 人口・世帯数の推移

一方、工業団地や大学の立地などにより、兵庫県内で最も高い昼夜間人口比率となっており（表 1-1）、企業や大学等との連携が、今後の担い手確保の上で重要であるといえます。

行政単位の変遷 近世には姫路藩に属す 32 の村落があり、明治時代前半に合併が進められて 13 村となりました。明治 22 年（1889）の町村制の施行でさらに合併が進み、^{たわら}田原村、^{やちくさ}八千種村、福崎村の 3 村が誕生しました。大正 14 年（1925）、福崎村が神崎郡内で初めて町制を施行して、福崎町（旧福崎町）が誕生し、昭和 31 年（1956）5 月 3 日に、これら 1 町 2 村が合併して、現在の福崎町が誕生しました。（図 1-3）

概ね、近世の村落は「自治会（区）」、明治時代前半の 13 村は「大字」、昭和 31 年（1956）までの 1 町 2 村は 3 つの「地区」として現在に受け継がれ、町民等に広く認識されています。なお、小学校区は、田原、八千種、福崎、高岡の 4 小学校区、中学校区は、市川を境に福崎東、福崎西の 2 中学校区となっています。（図 1-4）

交通 福崎町は、南北の生野街道（但馬道）と東西の北条街道（因幡街道）が交差する古くからの交通の要衝でした。現在も旧街道と並行又は一部重なりながら、南北に国道 312 号、東西に県道 23 号三木穴栗線が通っています。また、東西には中国縦貫自動車道、南北には播但連絡道路が通り、その交差点に福崎 IC が設けられて、広域自動車交通の結節点となっています。（図 1-5）

表 1-1 兵庫県下市町の昼夜間人口比率（上位 5 市町）

順位	市町	昼夜間人口比率 ^{注1}
1	福崎町	112.4
2	加東市	110.6
3	加西市	105.3
4	洲本市	102.6
5	神戸市	102.2

注 1：「昼夜間人口比率＝昼間人口／夜間人口×100」

- ・夜間人口：当該市町に常住している人口
- ・昼間人口：夜間人口－流出人口＋流入人口
- ・流出人口：当該市町から他市町への通勤・通学者数
- ・流入人口：他市町から当該市町への通勤通学者数

資料：平成 27 年国勢調査

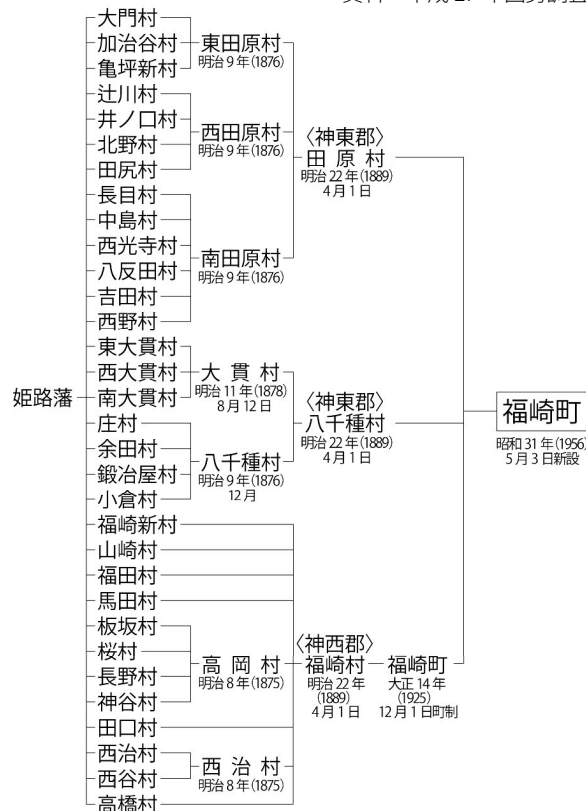


図 1-3 行政単位の変遷

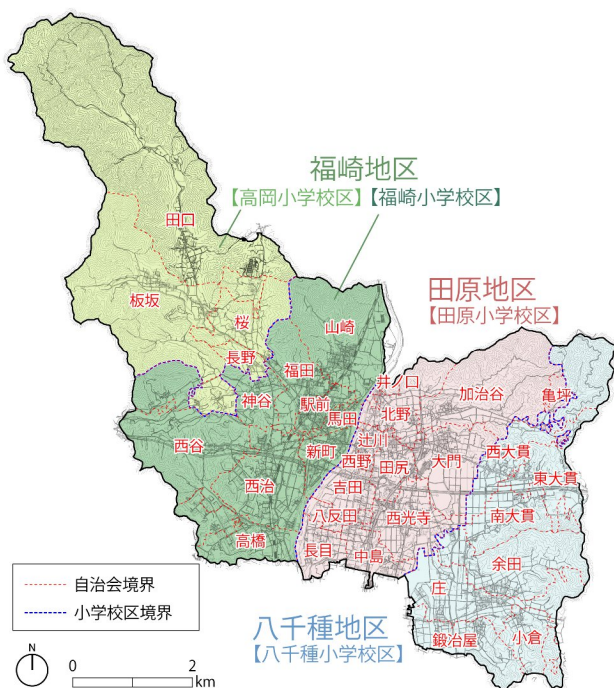


図 1-4 自治会と地区・小学校区の区域

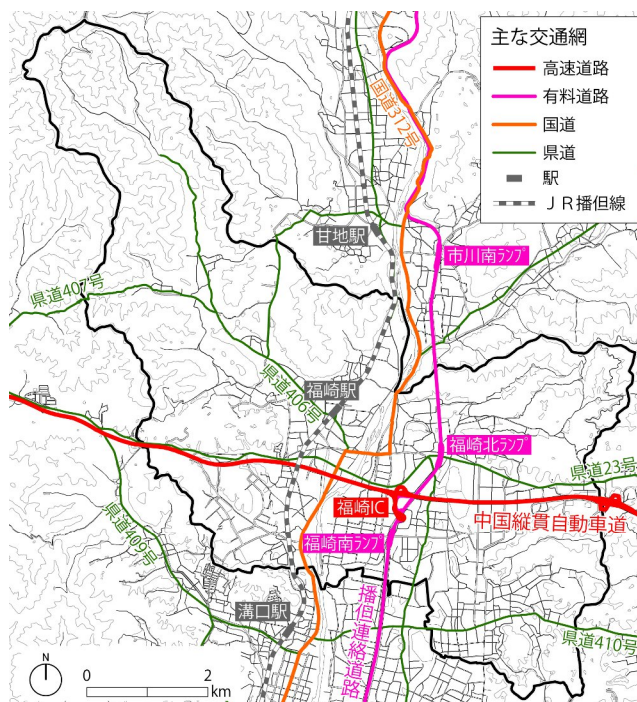


図 1-5 主な交通網

鉄道は、明治 27 年（1894）開業の播但鉄道を前身とする J R 播但線が南北に走り、J R 福崎駅は、町民をはじめ、通勤・通学者、観光客などの多くの人々が利用する福崎町の玄関口となっています。

バス交通では、神姫バス(株)により 3 系統の路線バスが運行されています。また、地域公共交通網の不足を解消するために、平成 11 年（1999）から巡回バス「サルビア号」を運行し、近年は近隣市町との連携により、バス路線の拡充を図ってきています。

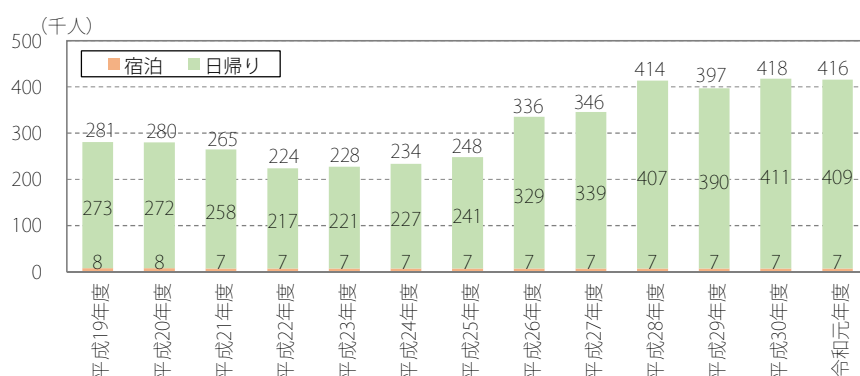
産業 農業は、古くから米作が中心で、作物別の作付面積・生産量では、水稻が最も多くなっています。近年はもちむぎの特産品化などを背景に、麦の作付面積・生産量も増加しています。

工業では、福崎工業団地、福崎企業団地、福崎町東部工業団地の 3 か所の工業団地に、金属製品や電気機械器具、化学工業などの企業が操業しており、近年の本町の工業従業者数は 4,500～5,000 人となっています。

商業は、広域交通の軸となる幹線道路沿道を中心に大型小売店舗や沿道サービス施設が集積しています。

観光業では、三木家住宅や柳田國男生家、神積寺、七種山などの全国にも知られる歴史文化遺産が観光の核となっています。近年では、柳田國男の著書にあやかって設置した河童像などが脚光を浴びて観光客数が大幅に増加し、平成 28 年度には観光客入込数が年間 40 万人を突破しました（図 1-6）。令和元年（2019）

10 月には駅前と辻川の 2 か所に観光交流センターをオープンし、令和 2 年（2020）3 月からレンタサイクルを運用しています。また、同年 11 月には県指定文化財である三木家住宅の一部と国登録有形文化財である旧辻川郵便局を活用したホテル・レストランが開業されるなど、さらなる観光振興に向けた取組を展開しています。



資料：兵庫県観光客動態調査

図 1-6 観光入込客数の推移

文化・観光に係る公共施設 文化・観光に係る公共施設は、歴史文化遺産の収蔵・展示などの社会教育関係施設 7 か所、観光振興を主目的とする施設 3 か所、イベントなどの催しや公民館クラブ活動などの町民文化活動の拠点となる施設 4 か所があります。（表 1-2、図 1-7）

表 1-2 文化・観光に係る公共施設一覧

区分	施設	主な役割・機能
社会教育関係	福崎町立神崎郡歴史民俗資料館	出土品や古文書、民俗資料、行政資料等の収蔵・展示
	福崎町立柳田國男・松岡家記念館	柳田國男・松岡家の業績顕彰と関連史料の収蔵・展示
	大庄屋三木家住宅	建物公開、民具・史料の展示
	三木家住宅展示兼収蔵施設	大庄屋三木家の関連史料の収蔵・展示
	柳田國男生家	建物公開、民具等の展示
観光振興関係	八千種埋蔵文化財倉庫	出土品の収蔵・保管
	福崎町立図書館	郷土史料・図書等の収蔵・閲覧
	福崎町駅前観光交流センター	地域情報・観光情報の発信、土産販売や交流の場
	福崎町辻川観光交流センター	もちむぎ商品の製造・販売等歴史文化に関する情報発信、来訪者の交流・宿泊・飲食
町民文化関係	福崎町文化センター	町民の文化・教養の向上や福祉の増進のための活動の場
	八千種研修センター	
	福崎町エルデホール	
	福崎町コミュニティセンター	地域社会づくりの活動の場

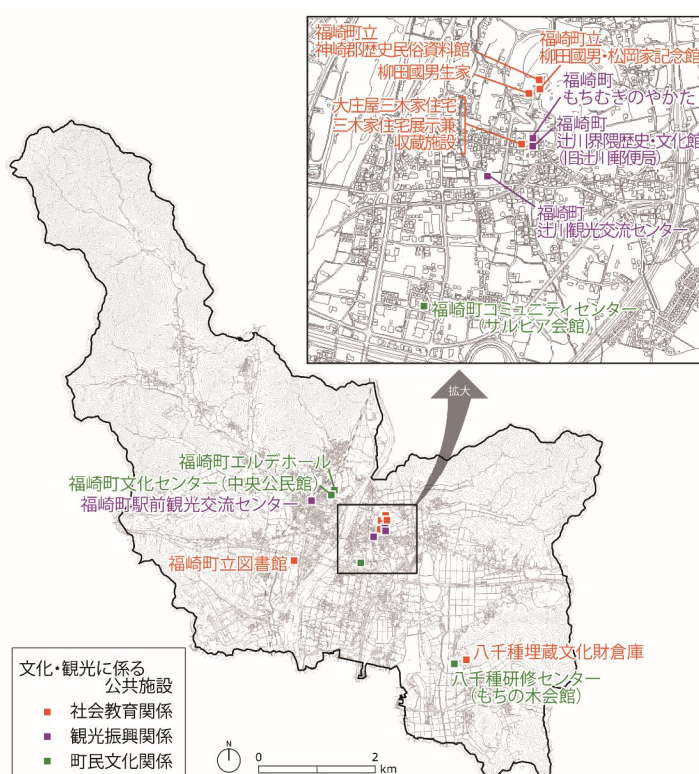


図 1-7 文化・観光に係る公共施設の分布

土地利用 町域北西部及び東部に広がる山林・原野 1,988ha と低地に広がる農地 827ha の自然的土地利用が、町域の約 61%を占めています。町中心部の平坦地に広がる市街地は、市川により東西に分断され、市街地の縁辺部では農地の転用も進んでいます。(図 1-8)

法規制 都市地域では、町域の北西部を除く 3,787ha (町域の約 83%) が都市計画区域で、このうち市川東西の市街地と 3 か所の工業団地の 425ha が市街化区域、残りの 3,362ha が市街化調整区域となっています(図 1-9)。なお、市街化調整区域の土地利用については、『福崎町土地利用基本計画』を定めています。

農業地域では、1,794ha (町域の約 37%) が農業振興地域で、このうち 856ha が農用地区域に指定されています。なお、これまで農用地区域の水田約 583ha のうち、372ha では場整備が完了しています。

森林地域では、国有林はなく、地域森林計画対象民有林が 2,459ha (町域の約 54%) で、このうち 722ha が保安林に指定されています。

本町では、自然公園地域の国立公園・国定公園・県立自然公園、自然保全地域の自然環境保全地域は指定されていませんが、環境の保全と創造に関する条例(兵庫県)に基づき、二之宮神社(山崎区)が環境緑地保全地域、福田大歳神社のイチイガシ(福田区)が郷土記念物に指定されています。また、福崎町では、町域内に所在する貴重な自然景観地区や箇所、樹木、動植物を保護して、自然と生活の調和を図り、豊かな生活環境を創ることを目的に昭和 47 年(1972)3 月に福崎町自然保護条例を制定しています。同条例では、「自然緑地保護地区」、「景観保護地区」、「動植物保護地区」、「保存樹」、「保護動植物」を指定することができ、令和 3 年(2021)12 月時点で 24 本の保存樹を指定しています。

都市計画区域外の土地利用では、平成 6 年(1994)3 月に緑豊かな地域環境の形成に関する条例(兵庫県)が制定されており、福崎町を含む中播磨地域においても、平成 17 年(2005)から同条例が適用され、本町では北西部の都市計画区域外の区域(田口区の区域)が、1 号区域(森と高原の区域)、2 号区域(森を生かす区域)、3 号区域(田園の区域)の 3 つの環境形成区域に区分され、区域ごとの環境形成基準に基づいて、土地利用や景観の誘導が図られています。

景観行政では、景観の形成等に関する条例(兵庫県)に基づき、平成 5 年(1993)以降、町全域を対象に大規模建築物等の景観誘導が図られています。また、同条例に基づき、平成 19 年(2007)3 月に柳田國男生家(辻川区)、平成 21 年(2009)3 月に旧辻川郵便局(辻川区)が景観形成重要建造物に指定され、景観上重要な建造物として、景観行政からも歴史文化遺産の保存が図られています。

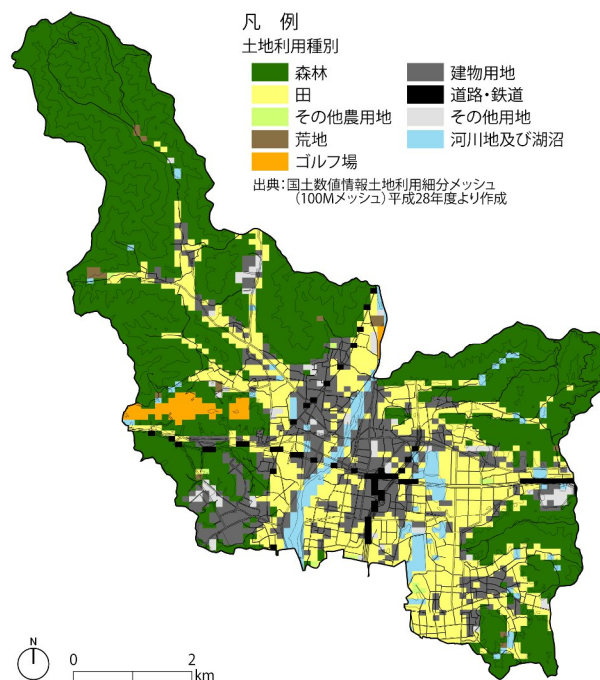


図 1-8 土地利用の状況

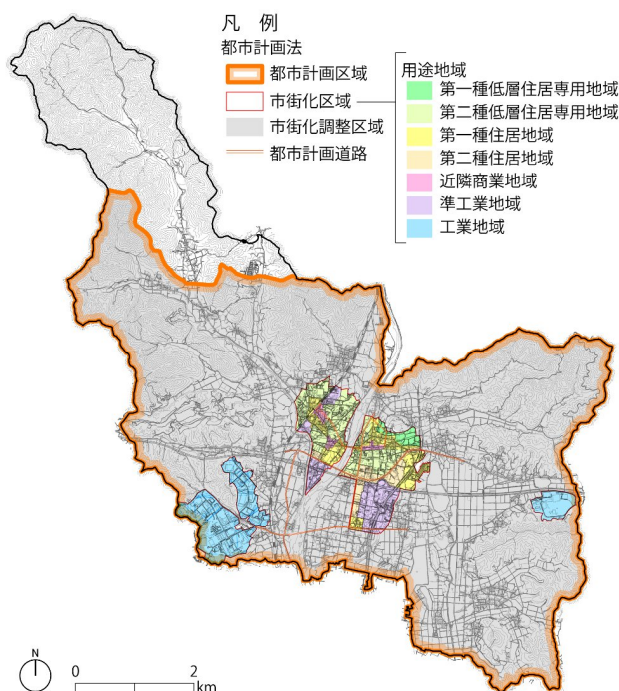


図 1-9 都市計画

(2) 自然環境

気候 気候は、概ね瀬戸内型気候に属して穏やかですが、内陸型気候の影響も受け、瀬戸内海沿岸の地域と比べて寒暖の差が大きく、過去3年間の平均は、最高気温は34.0℃（8月）、最低気温は-0.8℃（1月）です。年間降水量は1644.2mmで、6・7月（梅雨時）と9月（秋雨・台風時）に降水量が多く、8月（盛夏）の降水量が少ないという瀬戸内型気候の特徴が見られます。古くから市川の氾濫や降雪などの多くの災害の記録が残り、特に近年は短時間強雨が増加し、台風・豪雨等による災害の危険性が高まっています。

地形 町域の中央部を市川が南流して両岸に沖積低地や河岸段丘を形成し、特に左岸には西光寺野台地が発達しています。これらを取り囲む東・北・西部の山地には、『播磨国風土記』に見られる七種山（標高683m）や神前山（標高333m）、中世山城が置かれた日光寺山（標高408m）や飯盛山（春日山、標高198m）、近世に入会争論が繰り広げられた大倉山（標高385m）など、地域の歴史に関係する山々が多く見られます。

西部から北西部の山地には七種川、三谷川、西谷川など、東部の山地・丘陵地には雲津川、平田川などの市川支流の中小河川が流下して谷をひらき、灌漑用水を兼ねて低地や谷底平野に広がる農地を潤しています。しかし、瀬戸内型の気候条件や台地・段丘などの地形条件は、水の確保を困難にしたことから、古くから疎水路や数多くのため池が築造されてきました。なかでも西光寺野疎水路は「近代化産業遺産」に登録され、西光寺野台地のため池群は「ため池百選」に選ばれています。

地質 町北西部は生野（相生）層群、町南東部は福住層からなる超丹波帯、その他は加西層群からなる丹波帯に属します。つなぎ岩・笠岩・七種の滝は流紋岩質溶結凝灰岩の節理・浸食を示す貴重なもので、これらの奇岩や景勝が見られる七種山は、県名勝に指定されるとともに、「関西百名山」などにも選ばれています。

断層は、山崎断層帯に属する安富断層のほか、多くの推定断層が通り、これらの断層によって引き起こされるおそれのある内陸型地震への対策が急務となっています。

植生 主な植物群落は、モチツツジアカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、アベマキコナラ群集で、河畔には竹林、ササ類が広がる箇所も見られます。特徴的な植生として、照葉樹林である二之宮神社イチイガシ群落（山崎区）、大歳神社イチイガシ群落（福田区）、八幡神社コジイ群落（西治区）があります。

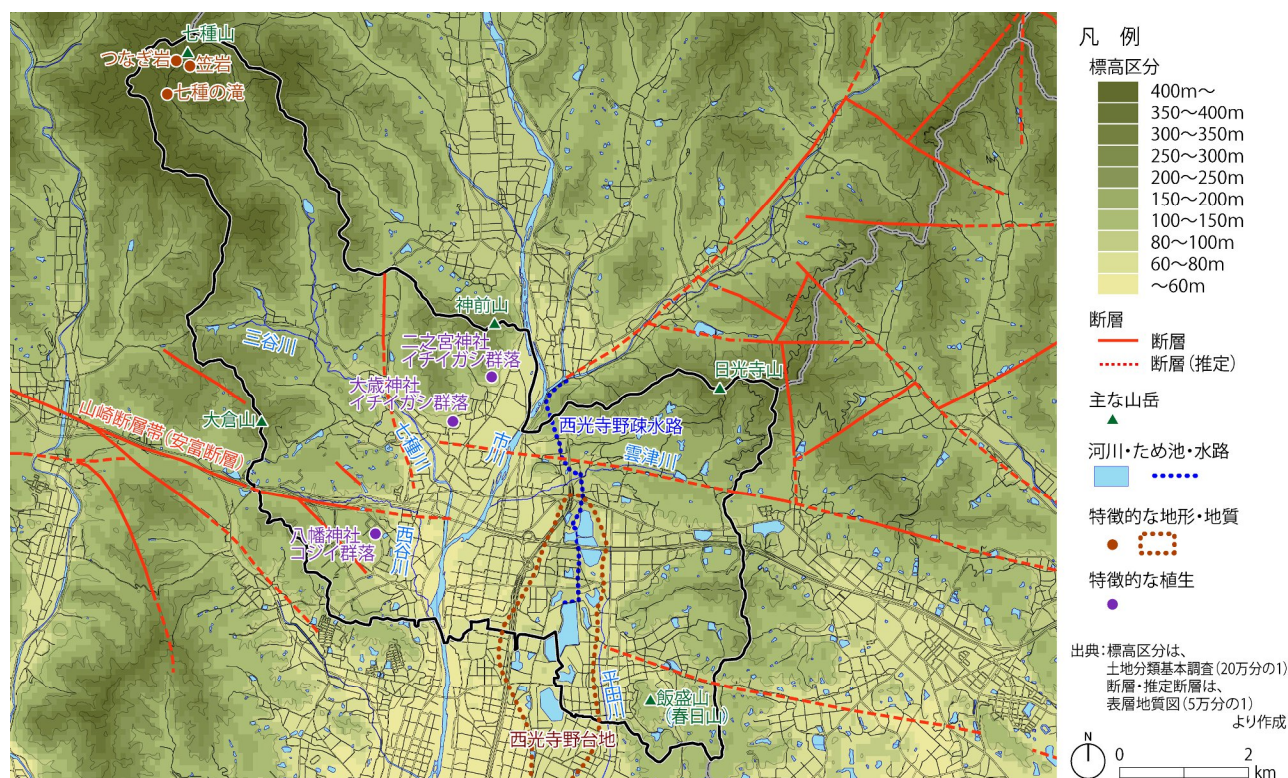


図 1-10 地勢

(3) 歴史・文化環境

ア 福崎町のあゆみ

原 始

旧石器時代 福崎町域には、今からおよそ 2 万年前の旧石器時代には人がいたと考えられています。土器をつくらず、打製石器で狩猟・採集をしていた時代で、西広畑遺跡（北野区）、南田原桶川遺跡（吉田区・西野区）、桜上池東岸（大門区）などではナイフ形石器が発見されています。

縄文時代 今から約 1 万数千年前から紀元前 3 世紀頃までの縄文時代には、石器に加えて縄文土器を用いた人々が、市川に注ぐ小川近くの山すそなどで暮らしていました。宝性院付近（西光寺区）では小学生により有舌尖頭器が発見され、西大貫遺跡（西大貫区）や南田原長目遺跡（長目区）などで石器や土器が出土し、特に宮山遺跡（北野区）では小型の打製石斧、林谷遺跡（板坂区・桜区）では石匙も出土しています。また、大門岡ノ下遺跡（大門区）の縄文時代晩期の竪穴住居跡からは石棒も出土し、当時の人々が呪術を発達させて仲間意識を高めていたことがうかがえます。また、八千種庄春日遺跡、八千種庄古屋敷遺跡、八千種庄北挟遺跡（いずれも庄区）では、動物を捕獲するための落とし穴も発見されています。



左：縦型剥片（桜上池東岸）
右：有舌尖頭器（宝性院付近）

弥生時代 弥生時代（紀元前 3 世紀頃～紀元後 3 世紀中頃）になると、町内にも稲作が伝わり、多くの場所で安定した生活が営まれるようになりました。集落跡や墓も多く見つかり、宮山遺跡（北野区）ではモミの跡が残る土器や甕棺（壺棺（B））、朝谷遺跡（山崎区）からは壺棺（壺棺（A））が出土しています。



左：壺棺(A)（朝谷遺跡）【町指定】
右：壺棺(B)（宮山遺跡）【町指定】

人々の定住は、地域のまとまりやその頂点に立つ有力者を生み出しました。弥生時代後期には、見晴らしの良い高所にも集落が営まれており、これは地域間での争いが起こっていたためとも考えられています。その一つである南田原長目遺跡（長目区）には、環濠が巡らされていたと考えられ、磨製石剣も出土しています。また、同遺跡からは、糸を撚るための土製紡錘車、遠方地域との関係を示す土器や分銅形土製品なども出土しており、他地域からの人の動きや新しい文化の流入を示すものといえます。

古墳時代 ヤマト政権が確立するなかで、各地に前方後円墳が築かれました。町内で前方後円墳は確認されていませんが、市川流域には、観音寺山古墳（市川町）と壇場山古墳（姫路市）などがあります。

町内では、古墳時代前期（3 世紀後半～4 世紀）の古墳は確認されていませんが、中期（5 世紀）には、鉄剣が出土したと伝わる高橋古墳群（高橋区）が築かれています。後期（6 世紀）には、埋葬施設も横穴式石室となり、東広畑古墳（北野区）、東新田古墳（北野区）、朝谷 1 号墳（山崎区）などの多くの古墳が築造されました。なかでも、相山古墳（西大貫区）は町内で唯一埴輪が出土し、妙徳山古墳（加治谷区）や大塚古墳（山崎区）は全長 10m 以上の巨大な横穴式石室をもっています。妙徳山古墳と加治谷敷下五反畑遺跡（いずれも加治谷区）のように、古墳と集落の関係も明らかになりつつあります。また、町内には石棺仏などに転用された石棺材も多く残っています。いずれも高室石製で、東西の道による高室（加西市）との古くからのつながりを伝えています。



朝谷 1 号墳（山崎区）【町指定】

古 代

飛鳥・奈良時代 大宝元年（701）の「大宝律令」により、古代律令制が確立し、地方には国・郡・里（郷）が置かれました。本町域は、大国に位置づけられた播磨国のなかの^{かんざきのごおり}神前（崎）郡に属し、^{たかおかのさと}高岡里（市川西岸の区域）、^{かわのべのさと}川辺里（田原地区の一部）、^{ただのさと}多駝里（田原地区の一部を除く市川東岸の区域）にあたるのが『播磨国風土記』から読みとれます。同書は、和銅6年（713）

の官命により^{へんさん}編纂された地誌で、本町域について記された最も古い文献です。郡・里の命名や特産物、土地の肥沃度のほか、山川原野名の地名由来などの伝承が記されており、^{かむさきやま}神前山、^{なぐさやま}奈具佐山（七種山）、^{やちくさの}八千軍野（八千種）という現在につながる身近な地名も見られます。

播磨国の国府は、現在の姫路市域に位置したとされていますが、神崎郡衙の位置は明らかになっていません。

しかし、福崎地域の高岡付近では、矢口遺跡（神谷区）

から官人の身分を示す金銅製の帯金具が出土し、福田無量寺跡

（福田区）から8世紀後半～9世紀代の瓦片が多数見つかり、

瓦葺建物があったことが判明しています。また、^{ほうどう}法道仙人開基の

伝承をもつ^{おうしやうじ}應聖寺（板坂区）には、白鳳時代（7世紀後半）制作の銅造誕生釈迦仏立像が伝わっています。一方、八千種地区の

^{うばがふところ}姥 懷 古墓（鍛冶屋区）では、寺院の屋根の棟に乘せる^{しび}鴟尾を

棺に転用した鴟尾棺が発見され、隣接する福井谷遺跡・福井谷窯

跡（いずれも庄区）では、同系統の鴟尾も出土しています。また、

周囲には窯焼き・土器作り工人在とえられる八千種庄文治遺跡・八千種庄文治口遺跡（いずれも庄区）

もあります。さらに、福井谷窯跡からは8世紀前半の木製仏像や土馬など、八千種庄文治遺跡からは祭祀に

使用する木製の^{ひとがた}人形や^{いぐし}齋串なども見つかっています。このように、当時既に本町域にも仏教文化が根付き、

福崎地区の高岡付近や八千種地区には官人層や工人集団がいたことがうかがえます。

一方、律令制社会の農民は、班田収授法に基づいて口分田を支給されており、政府は班田収授の円滑な実

施のために、土地を碁盤目状に区切る条里（条坊）制を施行しました。本町域でも、田原地区南部を中心と

した平野部に条里遺構（南田原条里遺跡）の存在が想定されています。

平安時代 平安時代においても、播磨国は国の格が高く、摂関

期から院政期にかけて、院の近臣や実力者が国司に任命されま

した。平氏が台頭すると、拠点の摂津福原（神戸市）を支える

後背地として、平氏被官の武士層が播磨一円に広まりました。

寺社では、^{けいほう}慶芳上人開基の伝承をもつ神積寺は、一条・三条

両天皇のあつい帰依を受けたと伝わります。神積寺は、本尊は

薬師如来、脇士に文殊菩薩、毘沙門天を安置し、一般には「田

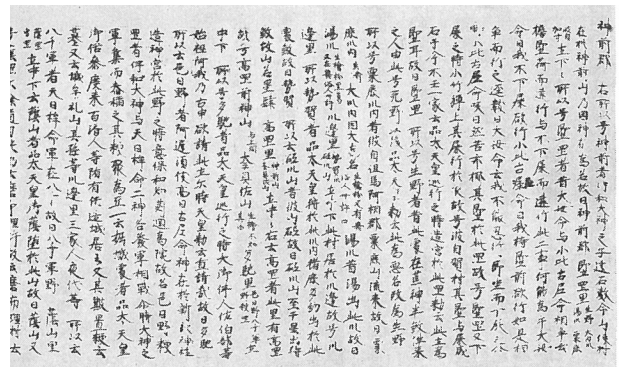
原の文殊」として親しまれ、平安時代後期には播磨天台六山の

一つに数えられました。保延4年（1138）に播磨国在庁官人の

桑原氏が実施した^{とんしやきょう}一日頓写 経事業（一日のうちに大般若経一

部600巻を書写する事業）の結願写経僧の一人に「妙徳寺（神

積寺）住僧玄真」の名が見られます。



『播磨国風土記』（部分）天理大学附属天理図書館所蔵



図1-11 帯金具（巡方）（矢口遺跡）

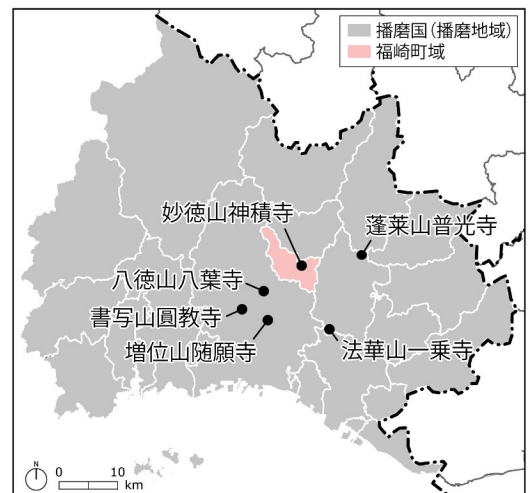


図1-12 播磨天台六山

中 世

鎌倉時代 文治元年（1185）、壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした源頼朝は、守護・地頭の任命を許可する「文治の勅許」を得た後、建久3年（1192）に征夷大將軍に任命され、名実ともに鎌倉幕府が完成しました。平家一門の強固な地盤であった西国一円では、その所領は没収されて関東御家人が入部し、播磨国守護には、相模国の梶原氏や下野国の小山氏などが就きました。

中世は荘園制社会であり、本町域には、福崎地区の高岡を中心とした高岡荘、田原地区の田原荘、八千種地区から姫路市の旧神東郡域に広がる蔭山荘の3つの荘園がありました。高岡荘は守護領（小山氏領）から近衛家領、田原荘と蔭山荘は九条家領であり、いずれも摂関家領でした。このため、寛元4年（1246）の宮騒動に伴う摂関家の没落は、本町域の荘園制の崩壊を加速させました。そして、播磨国では、赤松氏が台頭して勢力を拡大していくこととなります。

室町時代 建武3年（1336）、足利尊氏は「建武式目」を制定して室町幕府を開きました。赤松氏は、円心（則村）が播磨、長男範資が摂津、次男貞範が美作、三男則祐が備前の各守護に任命されて以来、播磨を本国とする有力守護家として勢力を拡大し、應聖寺（板坂区）は、赤松氏の祈願所として発展しました。赤松氏は、幕府の侍所に任ぜられる四職の一つとして幕府内に重きをなしましたが、美作をめぐって但馬の山名氏と対立関係にあり、足利氏一門でないことから將軍家との関係にも細心の対応が必要でした。嘉吉元年（1441）の嘉吉の乱はその破綻によるものでした。將軍足利義教の専制政治のなかで、所領が没収される危機感を感じた赤松満祐による將軍の暗殺に始まり、幕府の討伐軍が播磨に押し寄せ、田原口での山名・赤松の合戦などを経て赤松氏を討つという乱でした。

乱後、播磨は山名持豊に与えられ、赤松一族の反乱を力で制圧して武断的支配を強行しました。応仁元年（1467）に応仁の乱が起こると、赤松政秀が旧臣たちに蜂起を呼びかけて山名方を討ち、赤松政則を主君として播磨・備前・美作の三か国の旧領を回復しました。文明9年（1477）、京都を中心とする応仁の乱は終結しますが、播磨・備前などでは、その後も文明15年（1483）から長享2年（1488）の6年にわたり赤松・山名両軍による兵乱が繰り返されました。

その後、播磨は浦上氏の台頭と細川氏らの対立抗争に巻き込まれ、戦国乱世に突入することとなります。東播磨は三木の別所氏の覇権が成立しますが、西播磨は浦上氏・龍野赤松氏・小寺氏が対立して混乱が続きました。

このように中世播磨における長い動乱のなかで、但馬と播磨を結ぶ南北の道と、播磨の中央部を東西に横断する道が交差する場所にあたる福崎町域は、時には戦場となりながら、多くの軍馬や武士たちが行き交いました。町内には後藤氏の春日山城（小倉区・庄区・鍛冶屋区）や伊豆氏の高峰山城（西大貫区・加西市・市川町）などの中世城跡が残り、西光寺区の五輪塔は、嘉吉の乱の戦死者を供養したものとも伝わります。

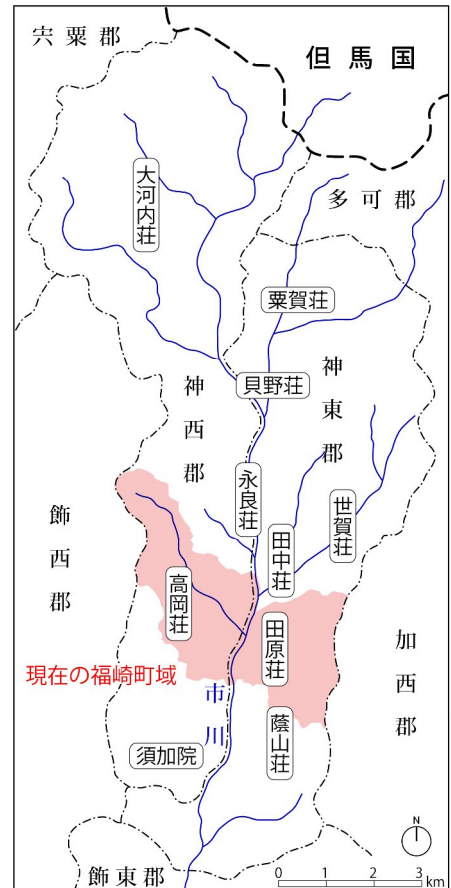


図 1-13 鎌倉時代の神崎郡域の荘園



春日山城跡
(小倉区・庄区・鍛冶屋区)



五輪塔（西光寺区）

近 世

安土桃山時代 羽柴秀吉の播磨攻略によって、春日山城や高峰山城などは落城し、天正8年（1580）の三木合戦の終結とその後の英賀城（姫路市）・長水山城（宍粟市）の落城により播磨一国が平定されます。これにより、播磨での戦国時代は終わりを告げました。

天正10年（1582）の本能寺の変の後、織田政権を継承した秀吉は、本拠を大坂城に移し、姫路城には弟の秀長を入れて播磨を支配させました。天正18年（1590）に天下統一を成すと、文禄3～4年（1594～1595）、全国ほぼ統一基準による検地（太閤検地）を実施しました。本町域では文禄検地帳は残されていませんが、文禄検地の内容をそのまま反映していると思われる慶長6年（1601）の検地帳の写しが鍛冶屋区に残されています。



鍛冶屋区蔵、兵庫県立歴史博物館寄託
慶長検地帳写し（鍛冶屋区）

江戸時代 慶長5年（1600）の関ヶ原の合戦により覇権を確立した徳川家康は、播磨一国の領主として池田輝政を姫路城に入城させ、姫路藩が成立します。江戸時代を通じて、本町域の村々はすべて姫路藩領であり、福崎町の近世史は姫路藩の歴史と一体であったともいえます。

姫路藩政は、藩主が頻繁に交代する前半と、酒井氏の藩政が続く後半に分けることができます。その分け目となるのは、姫路藩全藩で繰り広げられた寛延一揆（1748～1749）でした。多年にわたる年貢増徴と寛延元年（1748）の旱魃・風水害を背景に、村々の百姓は各地の大庄屋宅を打ちこわしました。そのなかにおいて、辻川組大庄屋三木家は、百姓からの評判が良く、打ちこわしを免れた数少ない大庄屋のひとつでした。一揆後、酒井忠恭が姫路藩主となり、藩財政緊縮のため大庄屋組の統合などの改革を行いました。江戸時代後期には、藩内各地に飢饉や災害に備えて米・麦を蓄えた「固寧倉」の整備も進め、福田区の固寧倉は修理されて現在に残されています。

町内各自治会には村明細帳や絵図などの近世の古文書が多く残り、当時の暮らしや生業、入会地の様子などを知ることができます。『播磨国郷帳』によると、元禄15年（1702）から天保5年（1834）に各村の村高の大幅な増加が見られ、この時期に疎水開削やため池造成などによる新田開発が進められたことが分かります。

社会世相が安定するなかで人々の往来も盛んになり、姫路から生野（朝来市）への南北の生野街道（但馬道）と、北条（加西市）から夢前（姫路市）への東西の北条街道の交差点にあたる辻川村・田尻村は町場的な要素を持っていました。また、西国三十三所の書写山圓教寺（姫路市）と世野山（現成相山）成相寺（京都府宮津市）を結ぶ巡礼道が本町北西部の板坂村・田口村を横断し、多くの巡礼者等が行き交ったことが文書や道標などからうかがえます。一方、寛永3年（1626）には市川に高瀬舟が就航し、年貢米や市川流域で産出する木材・薪などの輸送に使われました。

このように、街道や舟運による他国の旅人や商人の往来は、当地にさまざまな商品や情報をもたらし、貨幣経済の浸透を促しました。そして、学芸面でも大坂・京都など各地とつながる三木家が地域の学芸の風を誘発する核となり、辻川村の松岡家、北野村の臈家などが三木家と深い交流を続けるなかで、近世末から近代にかけて各分野に活躍する人材を生み出しました。

表 1-3 村高変遷表

村名	元禄 15 年 (1702)	天保 5 年 (1834)
	石 合	石 合
長目村	361.473	496.494
中嶋村	186.142	244.693
西光寺村	230.923	389.557
八反田村	310.327	385.422
吉田村	599.194	786.435
西野々村	75.316	94.533
井ノ口村	7.214	25.428
北野村	401.821	558.802
辻川村	98.501	123.363
田尻村	240.222	327.232
大門村	331.799	498.785
加治谷村	201.965	213.721
亀坪新村	21.527	21.527
南大貫村	432.424	646.125
東大貫村	453.156	478.568
西大貫村	502.103	612.982
余田村	587.146	826.014
小倉村	214.812	223.025
庄村	865.814	1,162.204
鍛冶屋村	284.622	398.573
福崎新村	259.742	261.958
馬田村	100.207	127.319
山崎村	584.133	750.159
福田村	535.324	713.867
田口村	144.922	187.253
板坂村	208.298	288.558
桜村	126.532	137.330
長野村	98.476	156.280
神谷村	163.855	233.845
西谷村	366.087	383.976
西治村	429.941	741.472
高橋村	111.904	144.131

資料：元禄 15 年及び天保 5 年の『播磨国郷帳』より作成

近代以降

明治・大正時代 明治政府は、中央集権化を進め、江戸時代の制度の改革を進めました。版籍奉還と廃藩置県による土地制度や行政区画の変更、神仏分離令による神道の国教化、古い身分制度の廃止などの大きな変化は反発を生み、騒動にも発展しました。明治4年（1871）、辻川村の元大庄屋三木家の襲撃に始まる播但一揆は、播磨から但馬まで波及した大規模なものでした。



播但一揆の時のものと伝える
刀傷（三木家住宅）

一方、政府は殖産興業による経済発展と軍事力強化を図るため、資金源となる鉱山開発にも注力しました。生野鉱山（朝来市）は官営鉱山となって西洋式の採掘が進められ、明治9年（1876）には鉱山に必要な物資や産出された銀などを輸送するため、生野鉱山と飾磨津（姫路市）を結ぶ生野^{いくのこうざんりょう}鉱山^{ぼしやみち}寮馬車道（通称「銀の馬車道」）が建設されました。その後、輸送量の増加に伴い、内藤利八らの尽力のもと播但鉄道の敷設が進められ、明治27年（1894）に姫路・寺前（現神河町）間、翌28年（1895）に寺前・生野（現朝来市）間が開通しました。神崎郡は松茸の産地であったことから、茸狩列車も運行するなど、播但鉄道は人や物資の輸送の中心として地域の発展や住民生活の向上に大きな役割を果たしました。

生業である農業の改革も進められ、日露戦争後には酪農が普及し、大正3年（1914）には西光寺野疎水路が完成し西光寺野が開拓されました。また、日清・日露戦争を通じて農家副業としての^{むしろ}蕨^{かます}・^{かます}吹製造も飛躍的に産量を伸ばして地域の特産となったほか、瓦製造などの工業も発展しました。

この明治の変革期、本町域からは、政治、実学、医学、宗教、文学、教育など、幅広い分野で新たな道を切り開いた人物を多数輩出しています。とりわけ辻川周辺では江戸時代以来、大庄屋三木家を拠点とした地域文化が開花しており、明治になって辻川に郡役所が置かれると、郡長の倉本^{れきざん}樸山、藤本^{えんしん}煙津、三木^{みちまさ}通済、松岡^{みさお}操などの地域知識人グループが形成されました。ここで育まれた豊かな学芸の風を背景に、日本民俗学の父・柳田國男をはじめとする松岡五兄弟など、各分野で活躍する人材がこの地から飛躍していきました。

昭和以降 昭和に入り、大恐慌と満州事変が起これば、本町域では、大恐慌による打撃を補うかのように、観光・レジャー開発が進められました。昭和6年（1931）から七種霊山施設事業として巡拝道路の改善や桜・楓の植栽などが行われ、西治の市川河畔には競馬場も新設されました。

第二次世界大戦がはじまると、姫路の後背地にあたる福崎には大阪陸軍航空補給^{しょう}廠^{しょう}姫路出張所（通称「高橋の弾薬庫」）が置かれました。昭和19年（1944）になると戦局の悪化による弾薬庫の疎開が急務となり、弾薬壕が掘られて大量の爆薬などが移されました。当初は高橋・西谷・西治で約20か所掘られましたが、岩盤が多く、能率が悪かったため、桜などに重点を移して20～30か所を掘ったとされています。福崎町は終戦まで空襲を受けることはありませんでしたが、多大な人的・物的損失を被ったことは言うまでもありません。また、戦後の昭和21年（1946）、占領軍の手による高橋の弾薬庫保管品の処理作業中に爆発が起これ、ボール中尉ら米兵3名と作業中の地元住民7名が亡くなるという悲惨な事故も起こっています。

昭和30年（1955）頃から始まる高度経済成長は、福崎町の人々の暮らしを一変させました。新たな工業製品の登場により長年地域の経済を支えてきた蕨・吹は消滅し、農業技術の発達により産業構造は大きく変化しました。そして、自動車の普及は、橋や道路の整備・拡張を促進しました。また、大貫^{よしきまさお}を故郷にもつ吉識雅夫は、船舶の大型化やロケット開発などで活躍しました。昭和49年（1974）には播但連絡道路と中国縦貫自動車道が交差する福崎インターチェンジが整備されると、交通至便性を背景に工業団地や大学等を誘致し、工業団地の拡張等を進めながら内陸型の工業都市として発展してきました。



福崎工業団地・福崎企業団地

イ 福崎町の歴史文化遺産

① 歴史文化遺産の把握

これまでの国・県・町による調査や既往資料、自治会や企業へのアンケート調査をもとに把握した歴史文化遺産は合計 2,210 件です（指定等文化財を含みます）。

なお、アンケート調査の結果、把握に用いた調査・既往資料の一覧、福崎町の歴史文化遺産（分布）は、それぞれ巻末資料の資料 2、資料 3－1、資料 3－3 のとおりです。

表 1-4 把握した歴史文化遺産の件数

分類					件数			
有形文化財	建造物	建築物	寺社建築	27	63	848	1,301	
			住宅建築	27				
			官公庁建築	2				
			医院建築	4				
			その他の建築物	3				
		石造物	石仏	100	780			
			石塔	99				
			寺社石造物	299				
			道標・町石	51				
			墓碑・石碑	161				
	その他の石造物	70						
	その他の構造物	橋梁	5	5				
	美術工芸品	絵画	絵馬	277	278	453		
			神像図	1				
		彫刻		21				
工芸品			19					
書跡・典籍・古文書・歴史資料		書跡・典籍・古文書	77 注1	128				
		棟札	50					
		その他歴史資料	1					
考古資料		7						
無形文化財		音楽・演劇・工芸技術等		11	11			
民俗文化財	有形の民俗文化財	祭具	屋台等	33	37	195	426	
			その他の祭具	4				
		民具		155 注2				
		その他の有形の民俗文化財		3				
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能		223	231			
		その他の風俗慣習		8				
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等		88 注3	183	319		
		古墳・その他の墓		48 注3				
		城館跡・寺社跡		7 注3				
		街道・古道等		10				
		戦跡		16				
		その他の遺跡（鉱山跡・跡地等）		17				
	名勝地	庭園		1	21			
		河川・滝		6				
		山岳		13				
		その他の名勝地		1				
	動物・植物・地質鉱物	動物		42	115			
		植物	樹木	29			71	
			樹林	9				
			植物種	31				
			切り株	2				
地質鉱物	岩石	2	2					
文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地	ため池	20	26	26		
			水路等	4				
			田・畑・樹園地	2				
伝統的建造物群		歴史的な町並み等		1	1			
文化財類型に該当しないもの		信仰の場	神社	48	85	126		
			寺院	25				
			惣堂	12				
		民間説話・地名・伝承地・屋号等		41				
総 数				2,210				

注 1：「〇〇家文書」「〇〇寺文書」「〇〇区有文書」等の所有・所蔵区分による数であり、件数・点数ではありません。なお、点数では三木家文書約 20,000 点、その他の文書約 10,000 点の合計約 30,000 点となります。

注 2：民俗資料分類表の小分類区分による数であり、件数・点数ではありません。なお、点数では合計 3,300 点となります。

注 3：「散布地・集落跡・生産遺跡等」と「古墳・その他の墓」で 1 件、「散布地・集落跡・生産遺跡等」と「城館跡・寺社跡」で 2 件の重複があります。これらの 3 つの類型に属す遺跡数は合計 138 件です。

② 指定等文化財

福崎町には、令和3年（2021）12月現在、国指定1件、県指定12件、町指定34件、国登録5件の合計52件の指定等文化財があります。

指定等文化財一覧は巻末資料3-2のとおりです。

表 1-5 文化財の指定等の件数

分類		国				県		町	総数
		指定	選定	登録	選択	指定	登録	指定	
有形文化財	建造物	0		5		6	0	5	16
	美術工芸品	1				1		12	14
無形文化財		0		0	0	0		0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0		0		1		2	3
	無形の民俗文化財	0		0	0	1	0	5	6
記念物	遺跡（史跡）	0		0		1		6	7
	名勝地（名勝）	0		0		2		0	2
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）	0		0		0		4	4
文化的景観			0						0
伝統的建造物群			0						0
総数		1	0	5	0	12	0	34	52

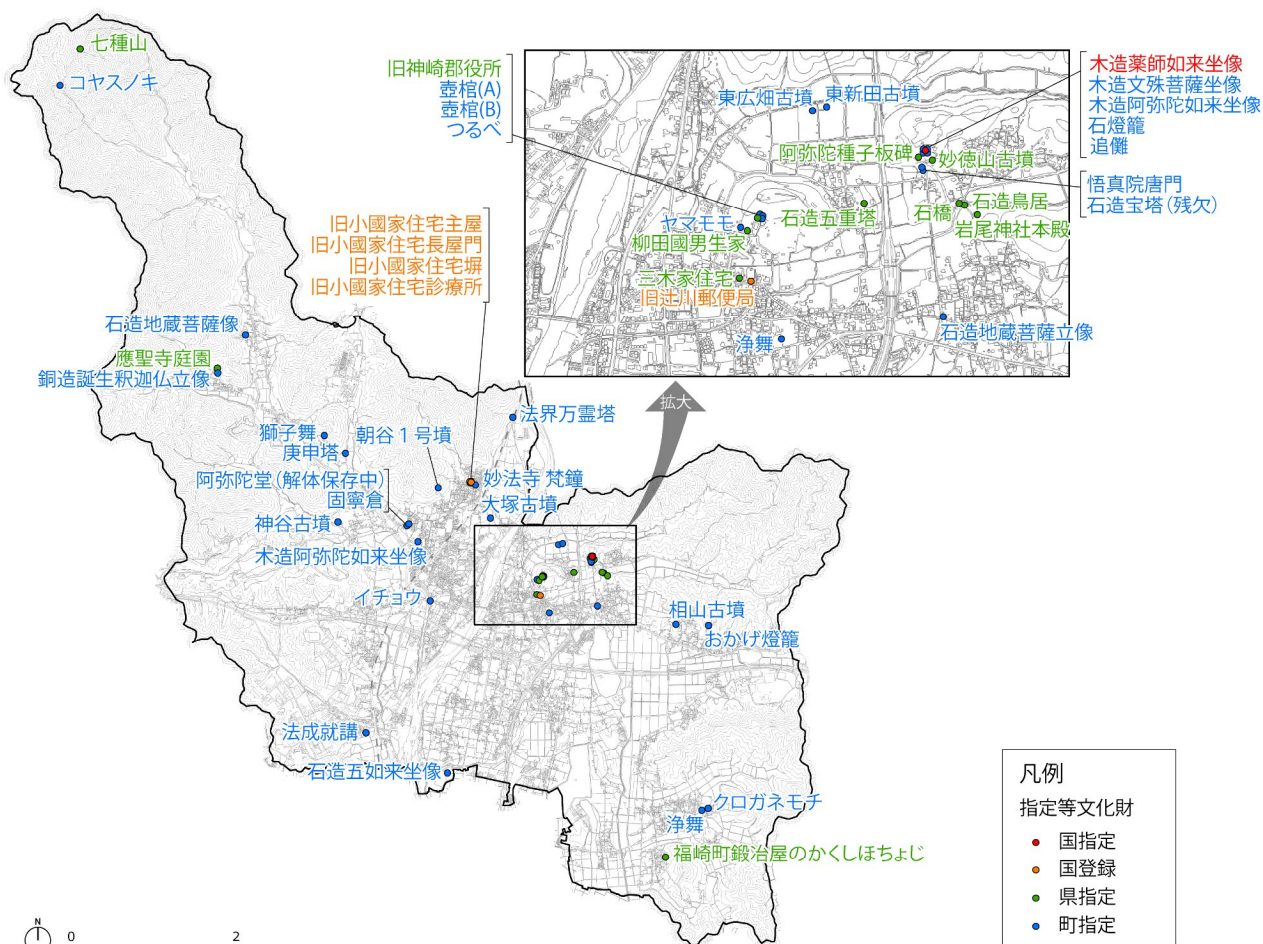


図 1-14 指定等文化財の分布

有形文化財（建造物）

る4つの元郡役所建築のひとつとしても貴重であることから、兵庫県指定重要有形文化財に指定されています。また、大正11年（1923）頃に三木拙二によって建てられた旧辻川郵便局は、国登録有形文化財に登録され、平成31年（2019）に現在地に移築・保存されています。医院建築では、国登録有形文化財である旧小國家住宅診療所（山崎区）などの4件、その他の建築物では、酒蔵や公民館などの3件があります。

石造物 本町の石造物は、近世の文化・文政・天保期（1804～1845）に造立のピークがあり（墓碑を除く）、石材は高室石（加西市産）が多いことが特徴です。多くが寺社境内や墓地、街道・古道沿いに位置し、合計780件の石造物を把握しています。種類の内訳は、「石仏」（仏像供養塔）が100件、「石塔」（念仏塔、題目塔、一字一石塔、三界万霊塔、巡礼塔、庚申塔など）が99件、「寺社石造物」（石鳥居、石灯籠、手洗石、神使、玉垣、香炉など）が299件、「道標・町石」が51件、「墓碑・石碑」（記念碑、慰霊碑、文学碑、墓碑など）が161件、「その他石造物」（石棺・石室、力石、石標、筆酒石など）が70件です。

このうち、文化財指定を受けているものは、合計12件（指定種別が有形文化財（美術工芸品）や有形民俗文化財である石造物を含む）です。県指定では、慶芳上人の墓と伝わり、鎌倉時代中期頃の造立とされる石造五重塔（北野区）、姫路藩主の命により奉納したと伝わる慶長16年（1611）造立の岩尾神社の石造鳥居（加治谷区）、江戸時代初期の神橋形式を知る上でも貴重な資料である石橋（加治谷区）、弘安9年（1286）に崩御された安喜門院（後堀河天皇の皇后）の百か日に建立された供養塔である神積寺の阿弥陀種子板碑（加治谷区）があります。町指定では、播磨地域の石棺仏分布の西端近くにあたり、他に見られない雲座上に地藏尊が刻まれた石造地藏菩薩立像（大門区）、全国でも数少ない仏滅紀年塔で暦仁2年（1239）の銘のある石造宝塔（残欠）（加治谷区）、天保2年（1831）頃に畿内を中心に流行したおかげ踊りの市川流域への伝播を示すおかげ燈籠（西大貫区）などが特筆されます。

この他、指定等を受けていないものの、他地域との交流がうかがえる出雲式構え型の狛犬（井ノ口区）や、柳田國男や井上通泰の名が刻まれた玉垣などの特徴的な石造物も見られます。

その他構造物 その他構造物は、橋梁5件があげられます。このうち、辻川山公園内に移設されている巖橋は、明治初期の生野鉾山寮馬車道（「銀の馬車道」）の建設に際して、木橋から石橋に架け替えられた橋として、近代史上の貴重な構造物です。また、神崎橋（西野区・新町区）や月見橋（井ノ口区・山崎区）は、昭和20年代頃まで航行した市川の渡し舟との関係を物語る構造物です。



石造鳥居【県指定】



阿彌陀種子板碑【県指定】



出雲式構え型の狛犬
（井ノ口恵美須神社）



巖橋

有形文化財（美術工芸品）

絵画 寺社や惣堂に掲げられている絵馬は合計277件です。天保12年（1841）奉納の宝性院（西光寺区）の当村毘沙門天開帳図などの大絵馬も多く、これらは美術的に優れた作品であるとともに、当時の寺院や祭礼・行事などが描かれた民俗的にも貴重な史料です。一方、小絵馬は民間信仰との結びつきが深く、神仏霊験の種類・祈願の内容等は多岐にわたり、画題も馬・神仏像・祈願内容・礼拝姿など多様です。なかでも、廣田神社（高橋区）のアカエイに関する絵馬は、痔疾の神の使者と伝わるアカエイを禁食して願掛けする民間信仰を反映した特徴的な絵馬です。



男拝み絵図（アカエイ禁断）

絵馬以外の絵画は把握調査が十分に実施できていませんが、應聖寺の大般若経転読会の本尊である大般若十六善神を描いた十六善神図など、寺社や旧家などに仏画・神像図や掛軸、屏風絵などが多数伝わっていると考えられます。

彫刻・工芸品 彫刻・工芸品は、これまで十分に把握できていない種類の歴史文化遺産です。断片的ではありますが、自治会へのアンケート調査等で、寺社・惣堂等に保管されている彫刻 21 件、工芸品 19 件を把握しています。

文化財指定を受けているものは、彫刻 5 件（石造物 4 件を除く）、工芸品 1 件です。神積寺の本尊である木造薬師如来坐像（加治谷区）は、同寺開山の慶芳上人が自ら彫り、安置したと伝わり、60 年に 1 度ご開帳される秘仏としても知られ、国の重要文化財に指定されています。この他、白鳳時代（7 世紀後半）の制作である應聖寺の銅造誕生釈迦仏立像（板坂区）、平安時代中期（10 世紀）の制作とされる木造阿弥陀如来坐像などがあります。工芸品では、江戸時代の京風の典型的な和鐘の一つである妙法寺梵鐘が町の有形文化財に指定されています。

書跡・典籍・古文書・歴史資料 これまで把握した書跡・典籍・古文書は 77 件、合計約 30,000 点にのぼり、このうち約 20,000 点が三木家文書です。三木家文書は、大庄屋としての村方文書に加え、好学の風を反映した地域内外の知識人・文化人との交流等を示す私文書が多数残されていることが特徴です。この他は、区有文書が約 5,100 点（13 自治会）、町所蔵の歴史的公文書が約 300 点、民間所在の文書（一部寄贈・寄託あり）が約 2,700 点、寺社文書が約 1,100 点です。

歴史資料では、神社棟札 50 件があり、各神社の建物の変遷や工事の由緒、明治時代の神仏分離以前の姿を知ることができる貴重な資料です。

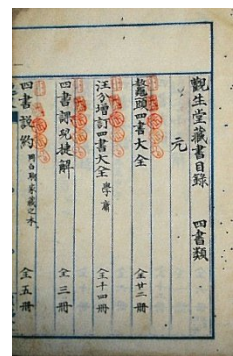
考古資料 町内の遺跡から出土した遺物は福崎町立神崎郡歴史民俗資料館（以下、「歴史民俗資料館」という。）と八千種埋蔵文化財倉庫で保管しています。特徴的なものには、旧石器時代は桜上池東岸（大門区）などで採集されたナイフ形石器、縄文時代は宝性院付近（西光寺区）で小学生が発見した有舌尖頭器や、打製石斧、石匙、石棒^{せきぼう}など、弥生時代は朝谷遺跡（山崎区）や宮山遺跡（北野区）で出土した土器棺、南田原長目遺跡（長目区）出土の土製紡錘車や分銅形土製品^{どせいひん}など、古墳時代は、馬ウ子古墳（山崎区）出土と伝わる耳環^{じかん}（金環・銀環）や東広畑古墳（北野区）出土の亀甲繫単鳳文^{きっこうつなぎたんほうもん}の柄頭をもつ銀象嵌大刀^{ぎんぞうがんたち}などがあります。奈良・平安時代では、姥懐古墓（鍛冶屋区）から出土した鴟尾棺（京都大学総合博物館蔵）、福井谷遺跡（庄区）出土の木製仏像や土馬、八千種庄文治遺跡（庄区）出土の人形と斎串^{いぐし}、矢口遺跡（神谷区）出土の金銅製の帯金具、福田無量寺跡（福田区）出土の重圈文軒丸瓦^{じゅうけんもん}などがあります。



木造薬師如来坐像【国指定】



銅造誕生釈迦仏立像【町指定】



『三木家蔵書目録』
明治 17 年頃に通済が代々の蔵書を整理したとされるもの



亀甲繫単鳳文
銀象嵌円頭大刀柄頭
（東広畑古墳出土）

無形文化財

音楽・演劇・工芸技術等 音楽・演劇・工芸技術等は、これまで十分な把握調査ができていない種類の歴史文化遺産です。『かたりべ』（福崎町かたりべ会）で断片的に把握されており、神崎小唄や播州音頭、毬つき唄、子守うた、遊びうたなどの計 11 件が把握できています。

民俗文化財（有形の民俗文化財）

祭具 秋祭りでは町内 31 自治会から屋台が出されます。屋台は屋根形状により布団屋根型と神輿屋根型に大きく分けられ、布団屋根型屋台が 23 台（うち 1 台は、現在練り出しを行っていません）、神輿屋根型屋台が 9 台の合計 32 台です。近年老朽化等により新調されるものも見られますが、修理・修復を重ねながら使われ続けている大正期・昭和初期頃の屋台もあります。また、日吉神社（西大貫区）には、明和 6 年（1769）銘の神輿 1 基も保存されています。

この他の祭具は、断片的な把握にとどまりますが、應聖寺（板坂区）の花まつり（灌仏会）で用いられる享保 20 年（1735）銘の花御堂や、鬼追いの面や浄舞の天狗面などがあげられます。

民具 町民から寄贈を受けた 155 件、3,300 点の民具が、歴史民俗資料館及び八千種埋蔵文化財倉庫に保管されています。種類の内訳は、「衣」226 点、「食」546 点、「住」199 点、「農業」287 点、「山樵」5 点、「漁撈」17 点、「養蚕」28 点、「畜産」42 点、「染織」39 点、「諸職」40 点、「交通・運搬・通信」39 点、「交易」1,262 点、「社会生活」84 点、「信仰」87 点、「民俗知識」41 点、「民俗芸能・娯楽」289 点、「人の一生」42 点、「年中行事」22 点、「その他」5 点です。このうち、大庄屋奥平家（八反田区）屋敷跡の井戸から出土した木製のつるべは、寛延一揆で居宅が打ちこわされた際に投げ捨てられたものと考えられ、寛延一揆を物語る遺物として貴重であり、町の有形民俗文化財に指定されています。

その他の有形の民俗文化財 その他の有形の民俗文化財では、屋台蔵などの村共有の建物が残されています。なかでも江戸時代後期に姫路藩が藩内各地に整備した非常食用糧備蓄倉庫の固寧倉は、その多くが取り壊されましたが、福田区の固寧倉は現存し、町の有形民俗文化財に指定されています。



つるべ【町指定】



固寧倉【町指定】

民俗文化財（無形の民俗文化財）

年中行事・民俗芸能 1970 年代以降、日本の民俗文化は急激な変貌が見られ、農村部は都市化され、かつての農耕文化の営みは機械化や農薬の普及により姿を変えました。これらに密接に関わっていた伝統的な民俗文化も同時に姿を消す一途を辿るなか、明治末年から大正初期の調査・作成とされる『福崎村風俗調査書』には、当時の民俗行事の詳細が記されています。

現在に伝わる年中行事は、223 件が把握されています。正月行事や盆行事、彼岸行事など多岐にわたりますが、特筆すべきものは、収穫祭にあたる秋祭りです。播磨地域の秋祭りは、「播州秋祭り」と呼称されるように、播磨平野を中心に播磨独自の祭礼文化圏を形成し、本町もそこに含まれます。秋祭りでは、町内 31 自治会から屋台が練り出され、田原地区は熊野神社（田尻区）、八千種地区の旧大貫村区域は大年神社（南大貫）、旧八千種村区域は余田大歳神社（余田区）、福崎地区は二之宮神社（山崎区）に屋台が集まり、盛大な屋台練りが披露されます。神事で奉納される熊野神社及び余田大歳神社の浄舞、桜区の獅子舞はいずれも町の無形民俗文化財に指定されています。

寺院の行事では、神積寺の修正会で行われている追儺（鬼追い）が、町の無形民俗文化財に指定されています。

その他年中行事では、稲作儀礼の名残といえるニジュウソ（神谷区）や虫送り（大門区・鍛冶屋区・山崎区）なども伝わります。また、トンドや初午、節



秋祭り（福崎地区）



追儺（鬼追い）【町指定】

分祭（斎灯）、花まつり、夏祭り、地藏盆なども多くの自治会で継承されています。なかでも、かくしほちょじ（鍛冶屋区）は県の重要無形民俗文化財、法成就講（高橋区）は町の無形民俗文化財に指定されています。

その他の風俗慣習 その他の風俗慣習は、十分な把握調査ができていないため断片的な状況ですが、食文化では、秋祭りで供えられる鯖寿司や甘酒の他、いかなごのくぎ煮、どじょう汁などの8件を把握しています。



法成就講【町指定】

記念物（遺跡）

散布地・集落跡・生産遺跡等・古墳・その他の墓・城館跡・寺社跡 周知の埋蔵文化財包蔵地は139件であり、その可能性が高いものとして田口山城跡の1件があります。種類別では、散布地・集落跡・生産遺跡等88件、古墳・その他の墓48件、城館跡・寺社跡7件です（重複あり）。時代別では、旧石器2件、縄文10件、弥生26件、古墳72件、奈良36件、平安34件、中世57件、近世4件、その他2件で（重複あり）、弥生時代以降の遺跡が多く確認されています。このうち、市川流域では最大級の横穴式石室をもつ妙徳山古墳（加治谷区）は県史跡、町内で唯一埴輪をもつ相山古墳（西大貫区）や亀甲繫単鳳文の柄頭をもつ銀象嵌大刀を出土した東広畑古墳（北野区）などの6件の古墳が町史跡に指定されており、有力者の墓と思われる大規模な古墳も多く残ることが特徴といえます。



妙徳山古墳【県指定】

街道・古道等 街道・古道等は、これまで10件を把握しています。主な街道・古道等には、古墳時代に高室（加西市）から石棺材などを運んだと考えられる石の道、中世以降の信仰の道である西国三十三所巡礼道と法華道、近世に姫路と生野（朝来市）を結んだ南北の生野街道（但馬道）と北条（加西市）から夢前（姫路市）への東西の北条街道、明治時代に生野^{しかまつ}鋤山（朝来市）と飾磨津（姫路）を結ぶ南北の産業道路として整備された生野鋤山寮馬車道（「銀の馬車道」）があります。これらの主要な街道・古道等以外にも、七種道や旧神西郡の南北道などの道筋が縦横に通り、交通の要衝として、地域内の人々だけでなく地域外の多くの人々が行き来していたことが、現在に伝わる道標や文書などからうかがえます。

戦跡・その他の遺跡 戦跡では、第二次世界大戦時に高橋区に置かれた大阪陸軍航空補給廠姫路出張所（通称「高橋の弾薬庫」）の表門（高橋区）・裏門（西谷区）の門柱が残っています。また、戦局の悪化に伴い弾薬庫の疎開のために掘られた弾薬壕が11か所（西谷区3か所、桜区1か所、田口区7か所）、防空壕が西光寺区と井ノ口区で1か所ずつ確認されています。

その他の遺跡としては、鋤山跡2件、近代以降に廃寺になった寺跡や役所・小学校などの施設の跡地15件があります。



大阪陸軍航空補給廠姫路出張所の表門門柱

記念物（名勝地）

庭園・河川・滝・山岳・その他の名勝地 合計21件を把握しており、内訳は、庭園1件、河川・滝6件、山岳13件、その他の名勝地1件です。このうち、近世前期の作庭とされる池泉観賞式庭園である應聖寺庭園（板坂区）、また、『播磨国風土記』に「奈具佐山」と記され、「関西百名山」、「ふるさと兵庫50山」、「ひょうごの森百選」などにも選ばれている七種山（田口区）は、ともに県の名勝に指定され、その美しい庭園や自然風景を目当てに全国各地から多くの観



應聖寺庭園【県指定】

光客が訪れています。また、市川及び七種山山中に位置する七種の滝（田口区）は、貴重な自然資源として『兵庫県版レッドデータブック』に掲載されています。

記念物（動物・植物・地質鉱物）

動物 兵庫県版レッドデータブックでは、貴重な動物種として42件があげられており、内訳は昆虫類21件、鳥類8件、貝類4件、魚類2件、両生類4件、哺乳類2件、菌類1件であり、市川の清流やため池群に生息するものが多く見られます。

植物 樹木29件、樹林9件、植物種31件、切り株2件の合計71件があります。樹木・樹林のうち24件は、「町民に親しまれ若しくは由緒由来がある樹木・樹林及び、すぐれた美観を呈する樹木・樹林又は貴重な樹木・樹林で保護することが必要なもの」として「保存樹」に指定されています。樹木・樹林のうち、柳田國男と深い関わりをもつことでも知られる町内最大のヤマモモ（鈴ノ森神社・辻川区）、七種川のほとりに地域の景観のランドマークにもなっている町内最大のイチョウ（新町区）などの4件が町の天然記念物に指定されています。また、植物種は兵庫県版レッドデータブックに掲載されている30件と田口区のオキナグサ群生です。切り株は、應聖寺の沙羅の古株（板坂区）、八坂神社の千年松株（八反田区）です。

地質鉱物 地質鉱物としては、七種山の山中に位置するつなぎ岩、笠岩（いずれも田口区）の2件の岩があげられます。つなぎ岩は、岩の節理に添った削離が途中で止まり、巨大な2つの岩が底部で岩盤につながる奇観を呈しています。笠岩は、水平に近い破れ目にそって岩盤が浸食されてつくられたもので、あたかも岩盤の上に巨岩が乗っているような姿で、落ちそうで落ちない岩として知られています。これらは、貴重な地質資源として兵庫県版レッドデータブックにも掲載されています。



イチョウ【町指定】



つなぎ岩

文化的景観

生活・生業・風土により形成された景観地 古くから米づくりが生業であり、水を確保するために多くのため池、水路が造られました。

町内には、約150か所のため池（町管理に限る）があり、いずれも土造で築造後150～200年を経たものです。このうち、受益面積が0.5ha以上の特定溜め池は95か所にのぼり、自治会等へのアンケート調査や近代化遺産調査などであげられたものは20件です。なかでも長池をはじめとした「西光寺野台地のため池群」は「ため池百選」に選ばれています。

水路では、西光寺野の用水不足を補うため、雲津川より引水して桜池を経て西光寺村、多田村（姫路市）へ送水、田尻村へは落ヶ池から送水するビワクビ疎水路（明治14年（1881）3月竣工）や、大正3年（1914）に西光寺野の開拓に際して築造された西光寺野疎水路（岡部川疎水路）などの4件があります。西光寺野疎水路は、全長540mの煉瓦^{れんが}トンネルも残り（内部底面及び一部側面をコンクリートで補修）、現在も農業用水として利用されています。

田・畑・樹園地については、自治会等へのアンケート調査であげられたもので、もち麦の栽培、矢口林道付近からの田園風景の2件です。



西光寺野のため池群

伝統的建造物群

歴史的な町並み等 歴史的な町並み等は、これまで十分に把握できていない類型の歴史文化遺産です。明治 20～30 年頃の地形図からは、かつての集落は、民家が不規則に集まる塊村状の集落が多く、辻川村や福崎新村、井ノ口村などは街道・古道に沿って家々が建ち並ぶ列村状の集落であったことが分かります。しかし、市街地が拡大し、建物も建て替わるなかで、かつての様子を伺い知ることが難しくなっています。なお、兵庫県による平成 19 年（2007）の景観資源の発掘調査では、辻川の町並みがあげられています。



辻川の町並み

文化財類型に該当しないもの

信仰の場 古くからの信仰の場としての神社・惣堂は、神社 48 件（境内社を含む）、寺院 25 件、惣堂 12 件の計 85 件を把握しています。

神社は、『神崎郡誌』（兵庫県神崎郡教育会、昭和 51 年）によると、明治期の町内には旧郷社 3 社を含め 34 社があり、明治 6 年（1873）に福崎地区の二之宮神社（山崎区）、田原地区の熊野神社（田尻区）、大正 7 年（1918）に八千種地区の余田大歳神社（余田区）が郷社となっています。この 3 つの郷社と南大貫区の大年神社は、現在も秋祭りでは各自治会の屋台が集まり、神事が行われる地域の中心的な神社です。なお、町内には、「大歳神社」「大年神社」の名をもつ神社が多く見られます。

寺院は、『神崎郡誌』では 24 寺院があげられています。法道仙人開基の伝承をもつ應聖寺（板坂区）と日光寺（西大貫区）、恵灌^{えかん}開基の伝承をもつ作門寺（現金剛城寺：田口区）、慶芳上人開基の伝承をもつ神積寺（加治谷区）などのように古代から中世前期の開基と伝わる寺院もありますが、多くは中世後期から近世の開基です。また、町内の寺院は、前述のように僧が開いたとされるもの、小國家が建立した妙法寺（山崎区）などの村の有力者が寄進したもの、赤松氏による観音寺（西治区）や後藤氏による西邦寺（鍛冶屋区）などの領主が開基したものの 3 つに大きく分けられますが、西正寺（馬田区）のように村の道場として開けたものもあります。宗派では、播磨天台六山の一つとされる神積寺をはじめとした天台宗や、真言宗といった密教系の寺院が多いことが特徴です。

惣堂は、かつては講などの村の行事や寄合などに使われ、人々の暮らしの中心的な役割を担っていました。そのいくつかは現在も使われ続けており、慶芳上人が堂に泊まった際の夢のお告げにより神積寺を建立したという伝承が残る有井堂（辻川区）や、赤穂浪士の大石内蔵助の妻りくが但馬へ里帰りする時に休憩したと伝わる地藏堂（辻川区）は広く知られています。

民間説話・地名・伝承地・屋号等 民間説話・地名・伝承地・屋号等は、合計 41 件が把握できています。民間説話・地名では、ガタロ（河童）やキツネなどに関する説話・伝承や『播磨国風土記』による地名説話、千束などの小字地名とその由来があげられます。伝承地では、古宮や桶川の泉、弘法大師ゆかりの井戸の他、七種山山中の金取岩や弁慶ののこぎり岩、二之宮神社の裏山の山上に位置し、建石敷^{たけいしきのみこと}命が降り立ち鎮座したとされ、神前郡の地名由来にも関わるとされる磐座、駒ヶ岩^{いわくら}のガタロ」の逸話や神馬のひづめ伝説が伝わる駒ヶ岩（西野区）、弁慶が山を登る時に担いでいた岩という伝説が伝わる金岩（板坂区）があります。また、井ノ口区や加治谷区では、かつての屋号も伝わっています。



駒ヶ岩

また、現存しませんが、かつての近隣組織である「ジョ」、同じ名字の家のまとまりである「イットウ」が組織されていたことも知られています。

④ 日本遺産

日本遺産は、文化庁が平成 27 年（2015）に創設した、建造物や遺跡、祭り等の有形・無形の文化財を活用した地域の特色あるストーリーを認定する制度です。

平成 29 年（2017）4 月に認定された「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」は、福崎町と姫路市、市川町、神河町、朝来市、養父市が連携し、国内最大規模で残る鉱山遺跡群の魅力が認められたものであり、そのストーリーの概要は次のとおりです。

日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」のストーリー概要

兵庫県中央部の播但地域。そこに姫路・飾磨港から生野^{しかま}鉱山へと南北一直線に貫く道があります、“銀の馬車道”です。さらに明延^{あけのべ}鉱山、中瀬^{なかぜ}鉱山へと“鉱石の道”が続きます。

わが国屈指の鉱山群をめざす全長 73km のこの道は、明治の面影を残す宿場町を経て鉱山まちへ、さらに歩を進めると各鉱山の静謐とした坑道にたどり着きます。

近代化の始発点にして、この道の終着点となる鉱山群へと向かう旅は、鉱山まちが放ついぶし銀の景観と生活の今昔に触れることができ、鉱物資源大国日本の記憶へといざないます。

福崎町には全長約 49km にわたる生野鉱山寮馬車道（「銀の馬車道」）の約 4km が通っています。日本遺産のストーリーは、後述の「歴史文化ものがたり」では、「人・物・情報の十字路」（38～39 ページ参照）の一部にあたります。

福崎町内の日本遺産の構成文化財としては、「生野鉱山寮馬車道」に加え、馬車道沿いの町場で、東西・南北の街道が交差して馬車道の物資中継の拠点になった「辻川界限」、近世姫路藩の大庄屋敷であり、兵庫県指定重要有形文化財に指定されている「三木家住宅」があげられています。



辻川界限



三木家住宅



図 1-15 銀の馬車道・鉱石の道